駿河台大学資格課程年報 第18号

著者	杜 正文, 野村 正弘, 瀬戸 純一
URL	http://id.nii.ac.jp/1307/00001872/

Creative Commons : 表示 - 非営利 - 改変禁止
http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/3.0/deed.ja

駿河台大学資格課程年報

Surugadai University qualification course annual report

司　書　課　程

学 芸 員 課 程

司 書 教 諭 課 程

No.18
（2017）

ごあいさつ

駿河台大学資格課程　主任　杜　正文

『駿河台大学資格課程年報』第 18 号をお届けいたします。

1994 年 3 月に駿河台大学文化情報学部が創設され、1995 年 4 月に、文化情報学部に資格課程（司書課程・学芸員課程）が設置されました。開設 7 年目の 2001 年に『駿河台大学資格課程年報』創刊号を刊行しました。そして、その後も継続して年報を刊行し、今年度も無事に第 18 号を刊行することとなりました。

司書課程においては、資料情報の組織化及び検索・提供を行う司書の育成を行っています。文字情報だけでなく、映像や音響も含めた多様な情報に対する理解や対処ができる、まさに情報の専門家の役割を果たす人材の育成をめざしています。

学芸員課程においては、博物館資料の展示・教育活動等の情報社会における意義・役割を重視したカリキュラムを設置し、資料情報のデータベース化やインターネット上での公開などの情報処理技術を身につけた新しい学芸員の育成をめざしています。

2004 年 4 月から、司書教諭課程も開設され、司書教諭資格を取得するために必要な資格申請を行なうことができるようになりました。

2009 年度には『メディア情報学部』が誕生し、駿河台大学資格課程は同学部に設置されています。資格課程は、メディア情報学部のほか、法学部・経済経営学部・現代文化学部・心理学部の学生も学ぶことができるようにされています。

2013 年度からは、図書館法および博物館法の改正に伴い、それに沿った新しいカリキュラムが開始されています。

また本学では、学外実習が始まった当初から教員がそれぞれの実習館を訪問し、実習生を受け入れてくださっている博物館とのコミュニケーションを図ってまいりました。これまでご理解・ご協力いただいた館園には、厚く御礼申し上げます。この年報を通して本学の資格課程カリキュラムの内容をご確認いただけましたら幸いです。

＝　目　　次　＝

ごあいさつ　杜 正文

Ⅰ．司書課程

駿河台大学　司書課程について　杜 正文　・・・・6

Ⅱ．学芸員課程

駿河台大学　学芸員課程について　野村 正弘　・・・・10
実習館訪問記：(「古代オリエント博物館」訪問報告)　瀬戸 純一　・・・・14

《博物館実習　体験記録》
博物館実習を終わって・レポートから　博物館実習生　・・・16

Ⅲ．司書教諭課程

駿河台大学　司書教諭課程について　杜 正文　・・・・24

資　料

博物館実習協力館一覧（過去 3 年分）　2015 年度、2016 年度、2017 年度
2017 年度資格課程（司書課程・学芸員課程・司書教諭課程）修了者
司書課程科目担当教員一覧
学芸員課程科目担当教員一覧
司書教諭課程科目担当者一覧

Ⅰ.司書課程

駿河台大学 司書課程について

メディア情報学部 教授 杜 正文

司書課程の特色

駿河台大学では1994年文化情報学部創設の翌年に資格課程として司書課程と学芸員課程を設置し、これまで1,200名以上の資格取得者を輩出している。2001年度より資格課程は全学に開かれ、他学部の学生も履修できるようになった。さらに、2004 年度からは司書教諭資格課程を設置し、50 名以上が司書教諭資格を取得している。

2009年に文化情報学部はメディア情報学部に改編された。メディア情報学部は、映像・音響メディアコース、デジタルデザインコース、図書館・アーカイブズコースの３つのコースで構成されており、様々なメディアの本質を理解し、各種メディアに精通し、多元的メディア社会に即戦力となる人材の育成を目標としている。

司書が専門的な業務を遂行する職員としてたずさわる図書館には、公共図書館・学校図書館・大学図書館に加えて、企業等に設置されている専門図書館・情報センターがあり、それぞれの利用者のニーズに応えて様々な情報サービスを提供している。駿河台大学の司書課程ではメディアと情報資源に関する全般的な知識や技術を学んだ上で、司書資格を取得することにより、今後のマルチメディア時代に公共図書館だけでなく、大学・専門・学校図書館などでも役に立つ図書館・情報専門職の教育を行っていることが特色である。

司書課程４年間の流れ

司書資格のための科目は 1 年次から開講されている。4 年次までに資格に必要な科目を計画的に修得し単位をそろえる。2013 年度以降の入学生を例に、4 年間の履修の流れを紹介する。（司書課程科目一覧を参照）

１年次：　入学してすぐに資格課程登録ガイダンスを受け、『資格課程受講登録』を行う。授業に出席し単位を修得する。1 年次から開講される必修科目は「生涯学習概論」「児童サービス論」の 2 科目である。

２年次：　授業に出席し単位を修得する。2 年次から開講される必修科目は「図書館情報学」「情報サービス論」「情報サービス演習Ｉ（基礎)」「情報資料論」「情報組織化論」の 5 科目である。選択科目も適宜修得する。

３・４年次：　授業に出席し単位を修得する。3 年次から開講される必修科目は 6 科目（講義科目 2 科目、演習課目 4 科目）で、必ず修得し、また選択科目を適宜修得する。そして司書資格に必要な単位（30 単位）をそろえる。

司書課程科目一覧（2013年度以降入学生適用）

区分	図書館法施行規則によって定められている科目		単位	本学における科目	単位	配当年次	必要単位数
必修科目	甲群	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	1	13科目26単位必修
		図書館概論	2	図書館情報学	2	2	
		図書館制度・経営論	2	図書館・情報センター経営論	2	3・4	
		図書館情報技術論	2	図書館情報システム演習	2	3・4	
		図書館サービス概論	2	図書館サービス論	2	3・4	
		情報サービス論	2	情報サービス論	2	2	
		情報サービス演習	2	情報サービス演習Ⅰ（基礎）	2	2・3	
				情報サービス演習Ⅱ（発展）	2	3・4	
		図書館情報資源概論	2	情報資料論	2	2	
		情報資源組織論	2	情報組織化論	2	2	
		情報資源組織演習	2	情報組織演習Ⅰ	2	3・4	
				情報組織演習Ⅱ	2	3・4	
		児童サービス論	2	児童サービス論	2	1	
選択科目	乙群	図書館情報資源特論	1	歴史資料論	2	3・4	2科目4単位以上
				デジタル・アーカイブス論	2	3・4	
		図書館サービス特論	1	コミュニケーション論	2	2・3	
		図書館基礎特論	1	情報処理概論	2	1	

司書課程科目一覧（2017年度以降入学生適用）

区分	図書館法施行規則によって定められている科目		単位	本学における科目	単位	配当年次	必要単位数
必修科目	甲群	生涯学習概論	2	生涯学習論	2	2	13科目26単位必修
		図書館概論	2	図書館情報学	2	1	
		図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	2	3・4	
		図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2	2	
		図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2	1	
		情報サービス論	2	情報サービス論	2	2	
		情報サービス演習	2	情報サービス演習Ⅰ（基礎）	2	3・4	
				情報サービス演習Ⅱ（発展）	2	3・4	
		図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2	1	
		情報資源組織論	2	情報資源組織論	2	2	
		情報資源組織演習	2	情報資源組織演習Ⅰ	2	3・4	
				情報資源組織演習Ⅱ	2	3・4	
		児童サービス論	2	児童サービス論	2	2	
選択科目	乙群	図書館情報資源特論	1	歴史資料論	2	3・4	2科目4単位以上
				デジタル・アーカイブス論	2	3・4	
		図書館サービス特論	1	コミュニケーション論	2	2・3	
		図書館基礎特論	1	情報処理概論	2	1	
		図書館総合演習	1	図書館総合演習	2	3・4	

（前カリキュラムからの変更点に下二重線を付した。）

Ⅱ.学芸員課程

駿河台大学 学芸員課程について

メディア情報学部　教授　野村 正弘

学芸員課程の目標と経過

駿河台大学の学芸員課程は、メディア情報学部に設置されている。メディア情報学部の教育目標の一つは、「情報メディエイター」の養成である。この「情報メディエイター」とは、人間の文化的営みに関する諸々の資料などに関する専門的知識を持つとともに、これらの資料情報をシステム化し、データベース化するための情報処理技術を身につけ、これらの資料に関する要求に対して適切な情報提供の仲介を行う専門家のことである。文化資料の宝庫とも言える博物館の「情報メディエイター」とは、その能力をもつ博物館学芸員を意味する。

この目標を達成するため、メディア情報学部の前進である文化情報学部のカリキュラムには、学部設置当初から博物館関係の科目が設けられた。1995 年、博物館法施行規則にもとづく学芸員資格取得のための必要科目も開設された。また同年、学芸員課程と司書課程を合わせた「文化情報学部資格課程」が設置され、専門的知識と情報処理技術を身に付けた学芸員の養成が本格的に開始された。

その後、1996 年の博物館施行規則改正に伴い、1997 年度から必修科目が開講されている。2001 年度には、他学部の学生や学外の科目等履修生も学芸員の資格取得を目指せるように、学則および科目の一部を改正した。資格課程も学部規模から大学規模に拡大され、現在は全学部からの委員で構成される「資格課程委員会」がその運営に当たっている。

学芸員課程の履修科目

1995 年の開講時には、必修科目として 6 科目 14 単位、選択科目では 12 科目の中から 4 科目 8 単位以上、人文・自然科学系科目として 10 科目の中から 3 科目 6 単位以上の履修が資格取得に必要であるように設定された。

1996 年度の博物館法施行規則の改正にともなって、必修科目に「生涯学習概論」、「博物館概論」を追加し、必要単位数を 8 科目 18 単位とした。さらに、2001 年度から、文化情報学部のカリキュラムの一部改正、ならびに資格課程を本学の他学部、科目等履修生に開講したことにともない、一部科目の新設ならびに入れ替えを行って、学芸員資格取得に必要な科目を加え改正した。

主な変更点は、次の通りである。必修科目では「博物館資料論」を設け、選択科目では科目を一部入れ替えるとともに、他学部開放にともない人文・自然科学系科目をＡ、Ｂの二つに分け、それぞれⅡ群、Ⅲ群とした。履修方法は、Ⅰ群は、受講者全員が履修することとし、Ⅱ群、Ⅲ群の科目からは 2 科目 4 単位以上を自由選択により修得しなければならないことにした。また、「博物館実習」は、年間を通して大学で行う学内実習と博物館などの現場施設で行う学外実習を合せて実施している。

2013 年度からは博物館施行規則改正に伴う新科目の開設を行い、別表 1 のカリキュラムでの学芸員養成を行っている。2017 年度からは、配当年次、選択科目の見直し等を行い、資格を取得し易くして、別表 2 のカリキュラムでの学芸員養成を開始している。

履修登録および博物館実習への対応

学芸員課程の履修については、毎年、「資格課程履修ガイド」を発行し、学生に配布して周知を図っている。これに基づく年間スケジュールでは、まず、毎年 4 月、1 年次生および 3 年次編入生を迎えた段階で、司書課程と合同で「資格課程登録ガイダンス」を行い、その後、学芸員課程の履修を希望する学生は、登録期間内に本学の所定の方法にしたがってメディア情報学部教務課窓口で登録することにしている。

博物館実習については、3 年次生を対象に、毎年 11 月中旬に第 1 回のガイダンスを行い、博物館実習の実施内容や実施上の注意事項を改めて説明している。そのとき、実習館園に関するアンケート調査を行い、その後のガイダンスで担当教員と学生が相談しつつ実習希望館園を絞り、適時学生白身に申し込みをさせている。その後も、申し込みの状況や途中経過などを確かめ、およそ 3 月～4 月末までに学生各白の実習館の内諾をいただけるようにしている。内諾をいただいた実習予定館園に、正式に文書で依頼している。

実習直前には、実習予定学生に対して「実習直前ガイダンス」を行っている。ここでは、博物館実習は、実習実施に当たっての諸注意や期間中の連絡体制等を説明し、実習日誌などを配布して、実習の心構えと準備を整えさせている。実習が始まると、担当教員ができるだけ実習期間中に各実習館園に挨拶に伺って、実習状況の確認と実習学生の激励を行い、以後の学生受入についてお願いしている。なお、資格課程に関わる一連の事務は、メディア情報学部教務課職員がその処理に当たっている。

学芸員資格課程の今後

1997 年度に初めて、本学の学芸員資格課程で 86 名が学芸員の資格を取得したが、2013 年度の法改正後は 5～6 名の学生が資格を取得している。しかし、博物館に就職した者は数名にすぎない。学芸員募集には、募集分野の細分化や高学歴化の傾向、施設運営の指定管理制度導入の影響が見られ、資格を持ちながらそれを活かす職に就けない状況が続いている。これは本学資格課程だけの問題ではなく、学芸員課程を開設している日本全国の大学に共通な問題である。

一方、学芸員資格を重視して採用を行ってくれる企業も、多くはないものの存在する。そこで本学では、博物館実習を一種のインターンシップの場としても捉えている。幸い、実習博物館でも、実習学生の受け入れを社会教育施設の業務の一つであると解して協力してくれるところもあり、今後大学と博物館とのさらなる連携が期待される。

別表１　学芸員課程科目一覧（2013 年度以降入学生適用）

区分		博物館法施行規則によって定められている科目等	単位	本学における科目	単位	配当年次	必要単位数
必修科目		生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	1	10科目22単位必修
		博物館概論	2	博物館概論	2	2	
		博物館経営論	2	博物館経営論	2	3 4	
		博物館資料論	2	博物館資料論	2	3 4	
		博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	3 4	
		博物館展示論	2	博物館展示論	2	2 3 4	
		博物館教育論	2	博物館教育論	2	2 3 4	
		博物館情報・メディア論	2	博物館情報学	2	3 4	
				マルチメディア論	2	2	
		博物館実習	3	博物館実習	4	4	
選択科目	Ⅰ群	資料・情報管理系科目		アーカイブズ学	2	3 4	2科目4単位以上選択
				映像メディア論	2	3 4	
				音響メディア論	2	3 4	
				データベース設計論	2	3 4	
				ネットワーク構築論	2	3 4	
				デジタル・アーカイブズ論	2	3 4	
	Ⅱ群	人文・自然科学系科目		歴史資料論	2	3 4	4単位以上選択
				都市と文化施設	2	2	
				文化人類学Ⅰ	2	1 2	
				文化人類学Ⅱ	2	1 2	
				歴史学Ⅰ	2	1 2	
				歴史学Ⅱ	2	1 2	
				環境生物学Ⅰ	2	1 2	
				環境生物学Ⅱ	2	1 2	
				生命の科学Ⅰ	2	1 2	
				生命の科学Ⅱ	2	1 2	
				現代自然科学Ⅰ	2	1 2	
				現代自然科学Ⅱ	2	1 2	
				地球科学	2	1 2	
				法史学Ⅰ	2	2 3	
				経済史Ⅰ	2	1	
				経済史Ⅱ	2	1	
				日本文化論Ⅰ	2	2	
				メディア社会学	2	2 3	

別表２　学芸員課程科目一覧（2017 年度以降入学生適用）

区分	博物館法施行規則によって定められている科目等	単位	本学における科目	単位	配当年次	必要単位数
必修科目	生涯学習概論	2	生涯学習論	2	2	10 科目 20 単位 必修
	博物館概論	2	博物館概論	2	1	
	博物館経営論	2	博物館経営論	2	2	
	博物館資料論	2	博物館資料論	2	2	
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	3 4	
	博物館展示論	2	博物館展示論	2	2	
	博物館教育論	2	博物館教育論	2	2	
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	3 4	
	博物館実習	3	博物館実習Ⅰ	2	4	
			博物館実習Ⅱ	2	4	
選択科目	資料・情報管理系科目		マルチメディア論	2	2	8 単位 以上 選択
			アーカイブズ学		3 4	
			映像メディア論	2	3 4	
			音響メディア論	2	2	
			データベース設計論	2	3 4	
			ネットワーク構築論	2	3 4	
			デジタル・アーカイブズ論	2	3 4	
	人文・自然科学系科目		歴史資料論	2	3 4	
			都市と文化施設	2	2	
			文化人類学Ⅰ	2	1 2	
			文化人類学Ⅱ	2	1 2	
			歴史学Ⅰ	2	1 2	
			歴史学Ⅱ	2	1 2	
			環境生物学Ⅰ	2	1 2	
			環境生物学Ⅱ	2	1 2	
			生命の科学Ⅰ	2	1 2	
			生命の科学Ⅱ	2	1 2	
			現代自然科学Ⅰ	2	1 2	
			現代自然科学Ⅱ	2	1 2	
			地球科学	2	1 2	
			法史学	2	2 3	
			経済史Ⅰ	2	1	
			経済史Ⅱ	2	1	
			日本文化論Ⅰ	2	2	
			日本文化論Ⅱ	2	2	
			西洋文化史	2	2 3	

（前カリキュラムからの変更点に下二重線を付した。）

≪博物館訪問記≫

「古代オリエント博物館」訪問報告

メディア情報学部　教授　瀬戸純一

2017 年 8 月 1 日午後 3 時、東京・池袋のサンシャインシティ文化会館 7 階にある古代オリエント博物館を訪問した。当ゼミ生のメディア情報学部 4 年、岡野直樹君が、古代オリエント博物館において資格課程の博物館実習を受けており、同館にご挨拶するとともに、実習の状況を参観して激励するためである。

古代オリエント博物館は、我が国最初の古代オリエントをテーマとする博物館として 1978 年に誕生。 以来、シリアなどでの海外学術調査を行い、その出土品に加えて考古、美術、歴史等の幅広い資料を展示している。常設展示のほか、随時独自の企画による企画展、クローズアップ展示、館外から受け入れた特別展などを開催。夏休みには子ども向けワークショップや制作教室も企画、多くの子どもたちが参加している。博物館実習の学生を毎年受け入れていただいており、年間 30 人以上が実習に励んでいるそうだ。本学からは、同じくメディア情報学部 4 年、矢部刀馬君も 9 月初め、お世話になっている。

同館を訪ねた 8 月 1 日は、夏休み制作教室「型で作る古代の技術　エジプトの護符つくり」の初日であった。実際に古代エジプトから出土した「護符」を作ってみよう、との企画。護符の型（健康祈念、恋愛成就など 5 種類あり）に粘土（5 色あり）を入れて取り出し、焼き上げて、オリジナルの護符を持ち帰る。参加費 100 円だが、子どもたちを中心になかなかの人気で、岡野君をはじめ 7 人の実習生が、参加者に手取り足取り、丁寧に指導している様子が強く印象に残った。一通り終わったあと、勧められて私も護符つくりに挑戦した。昔から、図画工作は大の苦手。型から粘土製の護符を取り出すところが特に難しかったが、岡野君の的確なアドバイスを受けて何とか完成させることができた。ゼミとはまた一味違う、頼もしき岡野君の姿がそこにはあった。

そのあと、実習生の指導に当たっている同館の田澤恵子研究員と岡野君の案内で、7 月 29 日から開催されている夏の特別展「魅惑のランプ――古代地中海からヨーロッパ、アジアまで」を見学した。

「今の私たちは夜も電気を灯す生活に慣れてしまっています。しかし人類は古代から暗闇 を征するために、火の明かりを利用してきました。油を使うランプは古くから登場し、地域 や時代で様々に異なるランプが作られました。揺らぐ火は、生活の必需品でもあり、死者を送る灯火になることもあったのです」。こんなキャッチコピーのもと、特別展には、古代ギリシャ、エジプトの地中海世界から現代までの様々な種類のランプが展示された。また暗闇にした一角に、シリアのパルミラ遺跡の地下墓をイメージしたレプリカを作成。そこに当時の性能に模したランプを持ち込んで、ランプの明るさを体験するコーナーも作られた。それぞれに興味深い企画で、古代オリエントの世界に改めてじっくりと触れてみたいとの思いが募った。

岡野君は、この特別展の準備にも当たったそうで、「パルミラの地下墓」では、入館して見学していた親子連れらに、よどみなく説明。なかなかのガイド役を果たしていた。

ここまで懇切に指導していただいた田澤研究員はじめ、古代オリエント博物館の皆さまに、深く感謝申し上げたい。ありがとうございました。

写真１　夏休み制作教室「エジプトの護符つくり」

写真２　パルミラ遺跡レプリカの前で岡野君（右）

博物館実習を終わって　―課題レポートから―

≪総合博物館での実習≫

埼玉県立川の博物館

メディア情報学部メディア情報学科　４年　石田英利

私は7月28日から8月9日までの休みを除いた9日間、埼玉県立川の博物館で実習をさせて頂いた。埼玉県立川の博物館は、荒川を中心とした川と水と人々の暮らしをテーマとした参加体験型の総合博物館である。実習では、体験授業の企画・運営・IPM・調書作成・資料の梱包といった学芸員の仕事を体験させて頂いた。

実習期間中に特に関わらせて頂いた活動が、体験事業の企画･運営である。「水の日記念イベント」と「アゲブネの試乗体験･流水実験」という体験授業に関わらせて頂いた。

「水の日記念イベント」は8月1日に行われたイベントである。実習生は事前に体験型･きき水の２種類の企画を考え、企画会議･イベントの準備･実行という流れだ。1日目に自習生で企画会議を行い「かわはく水の総選挙」「にじ色お花アート」「つくろう！世界にひとつのマイボトル‼」の企画に決定した。「かわはく水の総選挙」は硬水･軟水･ピュアウオーターを準備し、きき水をしてもらうイベント「にじ色お花アート」はコーヒーフィルターにペーパークロマトグラフィーでお花を作るイベント「つくろう！世界にひとつのマイボトル‼」は手書きのフィルムを、お湯で収縮させペットボトルフィルムを作るイベントで当日は多くの来館者に参加していただくことができた。

このイベントで大変だったことは、準備と接客だった。来客数を予想し、その数のペットボトルや必要なものを話し合い準備した。実験についてはお客様に説明ができるように自習生で試作をし、ペットボトルが変形しないような水の量やキャップはどうするかなど試行錯誤を重ねた。イベント当日は子どものお客様が夢中になって絵を描いていて１人あたりのブース滞在時間が長くイスやテントを増やしたり、お客様によってわかりやすいように説明の仕方を変えたりと、やってみないとわからないことが多く大変だ。だが、確りと準備していたおかげで大きな失敗をすることなくお客様に笑顔になっていただいたので良かった。

「アゲブネの試乗体験・流水実験」は8月9日に行った体験授業で川の博物館に寄贈されたアゲブネに実際に乗って頂く体験と、砂山で水を流していき川の働きについて学ぶイベントだ。「アゲブネの試乗実験」の準備にあたり、寄贈される経緯や資料の歴史を聞くことで資料を大切に扱おうという気持ちが強まり、あらためて、どの資料にも歴史や背景があると感慨深くなった。アゲブネの準備は掃除から行った。小さいサイズと大きいサイズの２種類を協力して掃除し試乗した。穴や亀裂が多いために大きいアゲブネが使えなく、小さいアゲブネはシリコンを使い修理した。時間をおいて修理と試乗を数回行い、本番で回るコースや説明の仕方、乗り入れ位置を話し合った。本番当日は前回のイベント同様にお客様によって説明の仕方を変え、アゲブネに乗り怖がっている子どものお客様には会話をつなげて安心させるように努めた。実際に昔使われていたものだと説明すると

驚いているお客様が多く、体験が終わり保護者の方に説明した内容を話している場面を見て、体験と学びを提供できたと実感した。

「流水実験」は実際に川の博物館の教育事業で行われているもので、小学校で行っている実験を私たち実習生が川の博物館で来館者に向けてやるものだ。準備は砂場の整備から行い、ホースで水を流し実験した。上流から川が流れ削られていきその土砂を運び下流に近いところで堆積し三角州ができる。この浸食・運搬・堆積・三角州をスコップ・シャベル・クシ・水を使って説明する。この実験で大変だったことは、実験をするごとに川の流れが変わってしまい、川が直線に流れてしまい浸食作用が思っていた方向と違うことがあった。それでも、3つの作用と、堆積したところが三角州になることを絶対に説明しようと努力した。その結果、見に来て頂いた学芸員の方にわかりやすくできていたと褒めて頂くことができた。

今回の実習を通して、学芸員の資料を取り扱う能力と説明する能力について、体験授業やイベントを行い体験することができた。体験授業は資料や道具を準備し、それに合った説明かつ、お客様に合わせた説明をするためにきちんとした正しい知識が必要だと感じた。色々なことを想定した準備は必要不可欠で大変なことばかりだ。その中で大切になってくるのは、担当者が楽しいと思えるものか、そしてイベントがどういう流れで行われ、どう終わるのか自分の中でストーリーができているのかが大事であると教えて頂いた。これはイベントの事のみならず様々な事で言えるとだ。子どもに学びと笑顔を提供できたことや、今回の経験は今後に生かしていきたい。

写真３　マイボトル試作

写真４　お花アート完成品

≪歴史博物館での実習≫

家具の博物館

メディア情報学部メディア情報学科　４年　伊藤幸貴

私は東京都昭島市にある、一般財団法人家具の博物館で年8月24～9月1日までの間、休館日を除く6日間博物館実習をさせていただきました。家具の博物館は、株式会社フランスベッドの創業者である池田実氏によって創設された博物館です。主に箪笥や椅子など、国内外から収集されたもの

を中心に展示してあります。さらに、菊池敏之氏によって製作された、縮尺５分の１のミニチュアなども展示してあります。

当館での実習内容は、主に、館内の清掃・資料の梱包などを中心に、展示資料の入れ替え・パネルの取り付け・資料のスケッチなどを行いました。

実習期間中は、最初は必ず館内の清掃から始まりました。清掃は濡れ雑巾と乾拭き雑巾とハタキを使い行いました。展示資料のほとんどは、展示用の棚に直接置かれているため、資料を傷つけないよう細心の注意をしながら作業を行いました。また、資料自体にも多少埃が積もっているところもあったため、資料を破損しないように慎重に拭き取りました。資料に直接触れながらの作業は、緊張しましたが、近くで資料を観察できるので、家具の細かな構造や仕組みなどを知ることができました。

それから、実習初日には、展示資料の入れ替えを行いました。最初は、かなり大きな箪笥を、二人で移動させることができるか不安でしたが、日本の箪笥は、何か所か外すことができ、思った以上に大変ではなかったです。しかし、分解できない箪笥もいくつかあり、その中でも、一番扱いが大変だったのが、日本で古来から使われていた車箪笥というものです。箪笥に木でできた車輪がついており、箪笥自体を押して移動できるというものです。これは、かなり頑丈に作られていたため、かなり重く、気を抜くと破損して兼ねないので、精神的にも体力的にも一番大変な作業でした。しかし、普段の展示では見ることのできない、箪笥の中などをじっくり観察することができ、日本の職人技に驚かされました。

続いて行った作業は、資料の梱包です。展示の入れ替えの際に交換した箪笥を、収蔵庫に保管するために行いました。方法は、以前授業で行った段ボールによる梱包で、やり方も類似する部分があり、スムーズにいくかと思ったのですが、箪笥の梱包となると、作るサイズもかなり大きいので、段ボール切る作業だけでも、結構大変でした。段ボールで、箱を作ったら、ガムテープと大きめのセロハンテープを使い、きっちりと固定しました。

ここで知ったことが、ガムテープだけだと剝がれてくることがあるらしく、そのために、上からセロハンテープで覆うことで、約一年もつとのことです。それからは、資料の番号と写真がプリントされているシールを貼り、収蔵庫に保管しました。半日かかってしまいましたが、無事作業ができました。梱包は実習期間中二回行い、二回目は、最初よりも早く作ることができました。

続いて行ったのが、資料の写真を用いたトレース作業です。これは、館が発行している、「博物館だより」の中の「ものしり家具講座」という記事に使われるものです。写真の上にトレーシングペーパーをのせ、万年筆で描きました。主に椅子を書いたのですが、特徴をきちんととらえて描かなければ、椅子の構造が違って見えてしまうので、元の写真を忠実に再現するように書きました。

このほかにも、パネルの取り付けや、データの入力などを、学芸員が行っている業務を体験させていただきました。博物館では調査研究を行う前に、別の業務がたくさんあるのだというのを、身をもって実感しました。実習中たくさんの椅子や家具などを観察し、日本の伝統技術で作られたもののすごさを感じました。実習先を家具の博物館にして本当によかったと思います。

写真５　データ入力中の様子

写真６　梱包のための箱の制作中の様子

古代オリエント博物館

メディア情報学部メディア情報学科　４年　岡野直樹

私は2017年7月24日から翌月6日まで古代オリエント博物館にて博物館実習をさせて頂いた。古代オリエント博物館は東京都豊島区のサンシャインシティ文化会館の７階にあり、現在の中東地域に興った古代文明である古代エジプト、古代メソポタミア、古代ペルシアといった古代オリエントにまつわる調査研究や展示を行っている博物館である。古代オリエント博物館では7月29日から9月10日まで夏の特別展として「魅惑のランプ」と題した古代オリエントから、地中海世界、インド、ヨーロッパ、東アジアなどの様々なランプの展示を行っており、我々実習生はその特別展に向けての休館期から実習が開始された。

7月24日から28日までの5日間は展示入れ替えのため常設展示室の展示物やキャプチャーボードの運搬、展示ケースの移動、展示ケースの清掃、といった展示入れ替え作業の補助や、特別展のポスターの掲示、備品の買い出しなどを任せて頂いた。

我々実習生は展示入れ替えの際は展示ケースの運搬や買い出しといった難度の低い業務しか手伝うことができなかったが、展示の入れ替えという通常見る機会のない様子を間近で見られたことは大変貴重であった。また、限られた期間の中で現場の学芸員の方々は打ち合わせや展示の配置などで常に慌ただしく研究室と展示室を動き回っており、一度の展示替えにも相当な労力がかかっていることが窺えた。

7月29日からは博物館が通常通り開館し、この期間我々実習生は特別展のうち、ランプが多く出土したパルミラ遺跡の地下墓をイメージした展示コーナーにおいて、来館者への誘導を任せて頂いた。この展示は当時の地下墓を再現するため、暗幕を使い照明も消しているためこの展示のある一画のみ室内が真っ暗になっており、展示をみる来館者には我々実習生がランプを模したライトをお渡しし、展示を見ていただくと同時に、ランプの明るさも体感していただくために特殊な形式をしている。

この展示に際し、我々実習生は開館から閉館まで１時間おきにローテーションを組み展示コーナーで来館者への誘導を行った。来館者の中には雰囲気が他の展示と違うためこの展示を見ないで通

り過ぎてしまう方も多く、そういった来館者にはこちらから声をかけ展示を見てもらうよう誘導する必要があった。他にも展示に関する質問をしてくる来館者も多く、答えられない質問には学芸員の方に聞きに行く必要があるなど、臨機応変な対応が求められる内容であった。また8月1日より「エジプトの護符つくり体験」が開始されるため、実習生は展示室での誘導以外にはこのイベントに向けた準備等も行った。

8月1日からは「エジプトの護符つくり体験」が開始となり、我々実習生はこのイベントの運営を任されることとなった。このイベントは8月1日から9月3日までの期間毎日13時から16時まで行われ、来館者にオーブン粘土を使い、古代の型の技法でエジプトの護符を作ってもらうという体験型のイベントである。このイベントでの我々実習生の作業は来館者への声かけ、護符つくりの説明と補助、完成した護符のお渡し、不足した粘土の補充である。このイベントの中で最も重要だったのがお客様の声かけと護符の作り方の説明であった。声掛けに関しては、親子連れの来館者であれば夏休みの宿題にと積極的に参加してくれる方が多かったが、体験コーナーの雰囲気がどことなく子供向けと受け取られてしまうためか、中高生や若い世代の来館者には参加してくれる方が少なかった。イベントの内容はどの年齢層の方でも楽しめるものなので、こちらから積極的に来館者にかけ、護符つくり体験に興味を持ってもらえるよう説明するのが大変難しかった。また護符の作り方の説明も来館者によって、例えば親子で一緒に体験していただく場合には親御さんと小学生のお子様にそれぞれ話し方や伝え方を工夫しながら、わかりやすく説明するにはどうすればよいかを常に考える必

写真７　地下墓の展示前で来館者にお渡しするランプを模したライト

写真８　護符つくり体験の様子

要があった。またこの護符つくり体験と並行して展示室でのお客様への誘導も行うため、我々実習生はローテーションの時間をしっかり覚えて２つの業務を行う必要があった。実習１週間目の展示入れ替えの補助といった業務から一転し、２週目からはお客様への誘導や体験イベントの運営といった接客が主体の業務がほとんどであった。

以上のように、古代オリエント博物館にて２週間博物館実習をさせて頂いた。上記以外にもPCを使ったデータの整理や、書庫の整理や送付物の仕分けなどの業務も任せていただき、実習期間は毎日異なる仕事を任せて頂いた。それらの博物館における多岐にわたる業務の数々を経験し、博物館で働く学芸員の方々の多忙さや求められる能力の高さを改めて実感できた。今回の実習で得られ

た知識や経験は大変貴重なものであり、護符つくり体験で意識した相手へのわかりやすい説明の仕方や、場面によっての臨機応変な対応などは今後も活用の機会が多いものだ。このような有意義な経験を積ませていただき、古代オリエント博物館の職員の方々に大変感謝している。

古代オリエント博物館

メディア情報学部メディア情報学科　４年　矢部刀馬

私は古代オリエント博物館で8月の28日から9月10日まで、2日間の休日を除いた12日間実習をさせていただきました。

古代オリエント博物館は、その名の通り古代オリエントをテーマとする博物館として1978年に設立されて、シリアなどでの海外学術調査を行い、その出土品に加えて考古、美術、歴史等の幅広い資料を展示している博物館です。私は今回の実習で博物館の行っている事業の一端をお手伝いさせていただき、授業だけでは知ることのできない博物館の実際を知ることができました。実習生が任された仕事は大きく分けて三つでした。体験教室の運営、特別展のお手伝い、石器の受け入れ作業です。

今回の実習の半分ほどを占めたのが「古代エジプトの護符作り」という体験教室の準備、運営です。古代と同じように粘土を型に押し入れ、それを焼いて護符と呼ばれるお守りを作る体験教室で私たち実習生はこの体験教室でお客様に作り方の説明をしたり、使用する粘土の準備をしました。

粘土を使用しての体験教室は老若男女問わずに人気があり、中でも幼い子どもには絶大な人気がありました。普段の生活の中で子どもに接する機会がなかったので、どのように接するべきなのか、どこまでお手伝いするべきなのかが分からずに困惑する場面が多くありましたが、ほかの実習生のやり方を真似てみたり、親御さんとの会話の仕方や細かい仕草をみて活発だったりおとなしい子であったりを判断して一人一人に違う接し方をして何とかお手伝いをすることが出来たと思います。

使用する粘土の準備はあまり人気のない色をほかの色と混ぜてマーブル色にしたり他の色の供給を薄くして選んでもらえるようにするなどの工夫をしました。この体験教室では、実際に古代と同じような製法で手作りすることでお客様の理解や好奇心を刺激する体験教室になっていました。古代オリエント博物館では実際に「体験する」ということに重きを置いているらしく、その特色が色濃く出ている業務だったように思います。

次に多くの時間を割いたのが特別展の「魅惑のランプ」のお手伝いです。約2000千年前の古代の墓地をイメージごと再現したもので、小さな洞窟のようになっています。中の照明もロウソクの火をイメージしたもので薄暗くなっています。そこにLEDを使ったランプのレプリカを持って中を見てもらうというものです。小さな洞窟とロウソクの明かりのような薄暗い環境と、古代の墓地という三つのものがうまく組み合わされてできている展示です。私たち実習生はその洞窟の入口に立ってランプを手渡して展示の内容や意図を説明をする係を任されていました。

洞窟の中に館内の光が入らないように黒い布で仕切られているので、そこにも展示があることに気付かないお客様が多く、展示がありますということをお声かけさせていただきました。ランプを

手に中に入って展示を見た人たちは「良い体験ができました」、「貴重な体験ができました」と、言ってくれる人が多く、「体験する」ということを大事にしているということが、お客様にもしっかりと伝わっているということが分かりました。展示品に気を配るだけではなく、その周辺の環境すらも展示の一部分として利用するという考えは初めての感覚で素晴らしい展示だと思いました。

最終日とその前の２日間の間は石器の受け入れ作業をしました。石器の高さ、幅、厚さを計測する係と、石器に受け入れナンバーを書き込む係。そして石器の写真を撮る係の三つに分かれて業務を行いました。

私は１日目は計測を担当し、２日目は写真を撮る係を担当しました。計測には「ノギス」と呼ばれる厚さを測ることのできる特殊なものを使用したので慣れるまではスムーズに測ることが出来ませんでした。

写真を撮る業務はカメラの設定を博物館側でやってくれていたのでシャッターを切るだけだったので簡単でしたが、撮る際に行う石器の上下を判別する作業が困難を極めました。石器として形がしっかりと残っているものは分かりやすかったですが、破片のようなものにまで上下の概念があって石に残っている波紋から上下を判別するのは大変で、分かり始めたころには実習が終わっていました。

私は今回の実習で体験学習の必要性を学びました。ただ見たり聞いたりするのではなく、自分の手で触れて学習することです。ほんの少しの差異ですが、そのほんの少しには絶大な効果が隠れていると思いました。

写真９　体験教室の準備中

写真 10　体験教室の準備完了

Ⅲ. 司書教諭課程

駿河台大学　司書教諭課程について

メディア情報学部　教授　杜　正文

司書教諭課程の概要

学校図書館法第５条第１項には、「学校には、学校図書館の専門的職務を掌らせるため、司書教諭を置かなければならない」と規定されており、2003 年度以降、12 学級以上を有する小・中・高等学校に司書教諭を置くことが義務付けられた。駿河台大学では、2004 年度に司書教諭課程を設置し、司書教諭資格を取得するために必要な資格申請を行えるようになっている。

司書教諭資格を取得するために

学校図書館法第５条第２項には、「前項の司書教諭は、主幹教諭（養護又は栄養の指導及び管理をつかさどる主幹教諭を除く。）、指導教諭又は教諭（以下この項において「主幹教諭等」という。）をもって充てる。この場合において、当該主幹教諭等は、司書教諭の講習を修了した者でなければならない」と規定されている。この規定に従い、本学では、司書教諭課程を修了して、資格を取得する要件として次の２条件を設けている。

（１）教育職員免許状を有する者あるいは教育職員免許状取得見込みの２年次生以上の者

（２）司書教諭の講習科目５科目１０単位を取得していること。

（１）および（２）の条件を充たすため、教職資格の取得を目指す大学在学生は２年次以降に、もしくは既に大学や短大を卒業して教職資格を所持する者は科目等履修生などとして、司書教諭課程において資格取得に必要な科目を履修し、その単位を取得できる。

司書教諭を取得するための講習科目および単位数

本学は、文部科学省の委嘱を受けて、2004 年度に学校図書館法で定める司書教諭の講習科目に相当する授業科目を開講した。本学で開講している司書教諭課程の授業科目は学校図書館司書教諭講習規定に定める科目と全く同じ名称のもので、以下の５科目１０単位である。

	本学における司書教諭課程科目	単　位	配当年次
必修科目	学校経営と学校図書館	2	２・３・４
	学校図書館メディアの構成	2	３・４
	学校指導と学校図書館	2	２・３・４
	読書と豊かな人間性	2	２・３・４
	情報メディアの活用	2	３・４

司書教諭資格の認定

司書教諭に関する科目を履修し、所定の単位数を修得した者は、文部科学省が委嘱した学校図書館司書教諭講習実施大学の講習修了者として登録される。文部科学省へ司書教諭の資格を申請し、文部科学省から「司書教諭講習修了証書」が交付されて、司書教諭資格所持者となる。

＝資料＝

博物館実習協力館および受入人数一覧（過去3年間）

【2015年度】

No.	所在	館種	2015年度実習協力館	実習人数
1	埼玉	歴史	毛呂山町歴史民俗資料館	1
2	東京	歴史	古代オリエント博物館	1
3	山梨	歴史	山梨県立科学館	1
4	埼玉	理工	さいたま市青少年宇宙科学館	2

【2016年度】

No.	所在	館種	2016年度実習協力館	実習人数
1	埼玉	総合	埼玉県立川の博物館	1
2	埼玉	総合	入間市博物館ALIT	1
3	埼玉	郷土	飯能市郷土館	2
4	東京	郷土	江戸川区郷土資料室	1

【2017年度】

No.	所在	館種	2017年度実習協力館	実習人数
1	東京	歴史	古代オリエント博物館	2
2	東京	歴史	一般財団法人　家具の博物館	1
3	埼玉	総合	埼玉県立川の博物館	1

2017年度資格課程・司書教諭課程修了者

〔司書課程〕

ﾒﾃﾞｨｱ情報学部
ﾒﾃﾞｨｱ情報学科
石川　翔子
石田　英利
岩佐　悠花
印出　美月
梅澤　由樹
遠藤　健太
岡野　直樹
奥津　佑佳子
我那覇　康平
木村　淑乃
桐生　凌
鯨井　大弥
小林　一会
佐藤　裕太
澤田　真紗美
菅原　大瑶
鈴木　隆誠
鈴木　友梨香
高橋　優花
武田　健佑
竜野　舞子
藤原　叶子
森　晴哉
森田　陽祐
矢部　刀馬
山崎　夏美
吉田　雄一

現代文化学部
現代文化学科
大竹　杏里紗
佐藤　友美

心理学部
心理学科
小林　風花
斎藤　明日香
鈴木　麻央
本田　真之
森川　美紀

計34名

〔学芸員課程〕

ﾒﾃﾞｨｱ情報学部
ﾒﾃﾞｨｱ情報学科
石田　英利
伊藤　幸貴
岡野　直樹
矢部　刀馬

計4名

司書課程科目担当教員一覧（2017 年度）

《専任》

[教員名]	[担当科目]
寺嶋　　秀美	情報処理概論
野村　　正弘	デジタル・アーカイブズ論

《非常勤講師》

[教員名]	[担当科目]
蟹瀬　　智弘	情報組織化論
國本　　千裕	情報サービス論
久保田　正啓	情報サービス演習Ⅰ（基礎）／情報サービス演習Ⅱ（発展）
河野　　剛彦	歴史資料論
小西　　和信	情報組織演習Ⅰ／情報組織演習Ⅱ
小南　　理恵	図書館・情報センター経営論
近藤　　真司	生涯学習概論
篠塚　　富士男	図書館情報学／情報資料論／図書館情報資源概論
中村　　順子	児童サービス論
西川　　和	図書館情報システム演習
橋元　　良明	コミュニケーション論
水沼　　友宏	図書館サービス論／図書館サービス概論

司書教諭課程科目担当教員一覧（2017 年度）

《専任》

[教員名]	[担当科目]
杜　正文	情報メディアの活用

《非常勤講師》　　学校経営と学校図書館／学習指導と学校図書館／

[教員名]	[担当科目]
杉山　　悦子	学校経営と学校図書館／学校図書館メディアの構成 学習指導と学校図書館／
中村　　順子	読書と豊かな人間性

学芸員課程科目担当教員一覧（2017 年度）

《専任》

［教員名］	［担当科目］
伊藤　雅道	環境生物学Ⅰ／環境生物学Ⅱ／生命の科学Ⅰ／生命の科学Ⅱ
井上　久士	歴史学Ⅰ／歴史学Ⅱ
今村　庸一	映像メディア論／メディア社会学
海老澤　豊	歴史学Ⅱ
大久保　博樹	音響メディア論
大森　一宏	経済史Ⅰ／経済史Ⅱ
岡田　安芸子	日本文化論Ⅰ
黒田　基樹	歴史学Ⅰ／歴史学Ⅱ
寺嶋　秀美	マルチメディア論／ネットワーク構築論
杜　正文	データベース設計論
信岡　奈生	文化人類学Ⅰ／文化人類学Ⅱ
野村　正弘	博物館概論／博物館資料論／博物館資料保存論／博物館情報学／博物館実習／デジタル・アーカイブズ論／地球科学
増田　珠子	歴史学Ⅰ
村越　一哲	博物館実習
本池　巧	現代自然科学Ⅰ／現代自然科学Ⅱ

《非常勤講師》

［教員名］	［担当科目］
枝川　明敬	博物館経営論
河野　剛彦	歴史資料論
近藤　真司	生涯学習概論
野木　道記	博物館展示論／都市と文化施設
羽田　武朗	博物館教育論

駿河台大学　資格課程　年報　第18号

発行日　2018年4月30日
発　　行　駿河台大学　資格課程
〒357-8555
埼玉県飯能市阿須698番地
TEL　0429－72－1110

駿河台大学
SURUGADAI UNIVERSITY